

ひと街にと

No. 41

語り継ごう、明日へ。

歴史はいつも未来へのみちしるべです。
世の中の進むスピードと自分の生きていくペースが、
少し合わなくなってきたなと感じ始めたら、
いつか来た道まで戻ってみましょう。



二〇二二年秋(年四回発行)

発行：(社)印刷紙工

札幌市中央区南十五条西十八丁目
TEL(011)561-1598

編集：ひと街にと刊行会

札幌市中央区北一条西十七丁目
北海道不動産会館四階

TEL(011)633-6655

オンコの実、 食べたね。

秋になってますます食欲旺盛な子供たち。どこにどんな木の実がなっているか、ちゃんと知っていますから、秘密の場所にわれ先にと飛んで行ったものです。身近な場所で摘むことのできたのはオンコ(イチイ)。ごく普通に庭木でおなじみですが、少し大ぶりの果実

の甘さは格別です。お腹を空かせた一団が通りがかりにでも見つけようものなら、まるで渡り鳥の群れのようにたちまち口の中に入れてしまい、地面は種だらけに。大人になってもそんなことをしている人はめったに見かけませんが、果実酒にでもしているのかも。

デパートの思い出、 いくつありますか。

大丸の進出で札幌はおろか近郊都市の買い物スタイルまで大きく変化。戦前から「見るは三

越、回るは丸井、買おかよそおか五番館」(さっぽろ文庫)などと言われて歴史を誇ってきた“御三家”も、廃業したり経営が移ったりで、特にお年寄りには出かけるにくくなりました。

呉服店からスタートした丸井今井の百貨店開店は大正5年。今はなき五番館は明治32年に札

まちのメモリー——デパート

幌駅前新築しています。また三越札幌店の開店は昭和7年と、いずれも札幌の発展とともに消費行動をリードしてきました。お出かけには、ご婦人たちは少しおめかしして、子供たちには屋上遊園地で遊んだり食堂でランチを食べたりするのが楽しかったものです。

デパート屋上の遊園地の賑わい
⑨今井で(昭37)



札幌駅前、顔だつた五番館(昭35)跡地の利用法はまだはっきりしない



札幌中心部が平らだったころから丸井さんの愛称が定着していた(昭29)



時の街角

北海道開拓の村から

馬橋まきならよく聞くけれど車橋くるまってナニ？
馬車の車輪と馬橋を作っていた仕事の紹介です。
共通点は木を蒸して曲げること。

車輪も橋の台木も木を蒸して曲げる。

藤原車橋製作所

明治初期から昭和二十年代にかけて、多くの市街地にあった車橋製作所。馬車が農作物や木材、一般の荷物のほか、時には人も運んだ時代でした。馬橋も積雪期にはなくてはならない運搬機関。冬に大活躍した証。馬が春に舞う「馬ぶん風」です。藤原車橋製作所は明治三十六年

考案されて北空知地方に普及し、北海道の馬橋製作史上大きな功績を残して「北海道開拓の村整備事業のあゆみ」にあります。パチパチというのは、北斗市郷土資料館に野外展示されているパチパチ橋の説明に、「馬橋二台を組み合わせたもの」とあります。乗せる木

材の長さに合わせて橋の前後の長さを調節できるものだったようです。仕事場をのぞくと、馬車の車輪や橋の製作に職人の技が要求されたかがわかります。主屋にも倉庫にも設備されているセイロウや釜、ストーブ、薪。さらには曲げ型台木、ロクロ。木を蒸して曲げるとい

橋の台木にも車輪にも共通した「アール(R)づくり」がさぞかし難しかったことでしょう。加えておびただしい工具の数々。開拓使が官営工場で始めた北海道の馬車・馬橋製作の集大成がここにあります。表通りから見るとすぐわかる、屋根に乗せた実物の馬橋と車輪が職人の誇りを表しています。



開拓時代から昭和二十年代にかけてなくてはならない運搬機関は馬車と馬橋。主要な市街地には必ず車橋製作所があった。

●北海道開拓の村 所在地／札幌市厚別区厚別町小野幌五〇―一 電話／〇二二八九八―二六九二



左上の馬車の車輪作りと右の橋の台木の鼻曲げの共通点は木材をセイロウでふかし、軟らかくして曲げること。高度な技術を要した

石川啄木歌碑 (小樽駅)

興味がなければ単なる石碑にしか見えなくても、そこになせあるのか多少でも知識があれば、より味わい深くなるものです。

今年、没後百年でクローズアップされている石川啄木。道内各地に歌碑がありますが、小樽駅西側の三角市場入口に立つこの歌碑は、当時の啄木の生活がよくわかるものの一つではないでしょうか。



三角市場の出入口から小樽駅方向を見るように

明治四十二年二月十九日。

子を負ひて雪の吹き入る停車場にわれ見送りし妻の眉かな
明治四十年(一九〇七)九月、小樽日報社に赴任した啄木は、妻の樽日報社に赴任した啄木は、妻の姉の夫で中央小樽駅長の家に身を寄せます。その官舎が現在の三角市場付近。やがて花園町に一家で移りますが、自ら引き起こした社
内のこたごたで、翌年一月十九日、単身で釧路へ向かうことに。
雪が舞う厳寒の駅舎。子を負う妻の目に見たのは心細さか、それとも恨みか……。このほど改装を終えて新しくなった小樽駅ですが、その情景を思い描くことは容易でしょう。



上：新しくなった小樽駅。下左：啄木一家が間借りしていたせんべい屋。今は飲食店「た志満」(花園3-9)。下右：啄木が勤務していた小樽日報社跡地に建つ内科医院(静屋通り)



まちの仕事

ラケットショップスガワラ

菅原 薫さん

札幌市中央区南一条西十二丁目
第三一条ビル
電話〇一(一)二七二一三三五五



菅原さんと妻のたき子さん
たき子さんもスゴイ戦績の持ち主

夏のロンドンオリンピックでは北斗市の出身の佐々木翔選手が話題となり、女子のペアが愛称で呼ばれるほど身近なスポーツとなったバドミントン。近年は中国や韓国、東南アジアの力が抜さん出ています

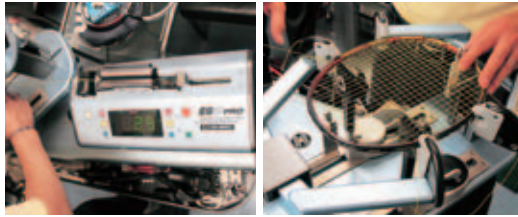
が、日本に女子の世界チャンピオンがいた時代からバドミントンにかかわっているという「ラケットショップ・スガワラ」の菅原薫さん(六)です。

その日本女子の黄金期、六〇年代後半から七〇年代にかけて、菅原さんはラケットメーカー、ヨネックス東京本社の営業マン兼選手でした。「プレーヤーとしては団体戦の員数合わせのようなものでした」と謙そんしますが、選手だったか

らこそ今日までの歩みもあるのでしょうか。やがて転職になって地歩を固めた北海道。「バドミントンのレベルも高く、専門店もなかったもので」、現在の向かい

張ったガット 九万本!?! プレーヤーと歩む。

で開店したのが昭和五十八年のことです。以来、ラケットスポーツの専門店として用品販売とガット張り替え、選手の手育成、強化に情熱を傾け、現在は北海道実



機械にラケットを固定し縦横とガットを張っていく。テンションは自動で設定。写真は、十五ポンドを示している一本張り上げのおよそ二十分

業団バドミントン連盟の常務理事でも。

スタッフ七人のうち四人は菅原さん、奥さん、二人のお子さんのバドミントン一家。じつは奥さんのたき子さんも、先の黄金時代にやはりヨネックスの選手で、北海道に来てからは二十一年間、全日本レディース選手権の北海道代表メンバーだったので、戦績は私よりスゴイ」と菅原さん。七人全員が日本体育協会の指導員の資格を取得しているのもこ



創業29年目の今年、10月11日にオープンしたばかりの新店舗にバドミントンやテニスのラケット、ウェアなどが並んでいる

ちらの特徴です。

創業二十九年目の今年十月、新店舗に引越して菅原



さんも感慨深げ。ちなみにこれまでにお店で張ったガットは何本くらいになるか尋ねると、スタッフが即座に電卓をはじいて「さつと九万本」という答えです。一本張り上げるのに、集中して機械に向かえば十分くらいで完成しますが、その間に来客があったり電話を受けたりで中断もしばしば。「お客さんの指定するポンド数(テンション)に早く正確に張り上げることが、昔も今も変わらないモットーです。

道具で

道草30年

坂一敬

レトロスペース坂会館館長
坂栄養食品開発部長

六月初め、新聞の片隅に『沙漠の魔王』が、秋田書店より復刻されるといふ広告が載った。私はすぐ知り合いのアテネ書房に行き、この本を購入する旨を伝えた。もちろん、お店の人はこの本のことには知らない。まだ生まれるずっと前の話だから。

この波は北海道の片田舎・士別にも及び、校庭で処分するから各自持つてくるように言われた。もちろん私は一冊たりとも持つていかなかった。リング箱に何箱もあり、私の宝物だったのだけど、札幌に引越す時、父から多すぎて貨車に積みきれないと言われて、泣く泣く置いてくるしかなかった。今でも残念。せめて『沙漠の魔王』だけでも持つてくればよかった。

再会、『沙漠の魔王』



当時の『冒険王』の付録だった『沙漠の魔王』の年賀葉書。筆者秘蔵の本物の額装!?

福島鉄次の『沙漠の魔王』は私を夢中にさせてくれた。ブラウン、ポップ、メリー、そしてプッセ、彼女の白い顔はサラの香水と共に今でも目に浮かぶ。年に二回ほど出る『冒険王』日本・沙漠の魔王は、小学生の私にとつての宝物であった。たしか一冊百円だったと思う。やむをえない事情があつて全部は買えなかったのだけれど七冊は持っていた。

小学六年ぐらいたつただろうか、悪書追放運動というのが日本に起こった。

内容がケバケバしく、荒唐無稽、非科学的でかつ前近代的、例として沙漠の魔王、エロチックでイヤラシイ、手塚治虫の漫画「青少年にはもっと健やかで健康的な読み物を与えるべき」という訳。東京では「見ない、読まない、買わせない」という三不運動が起こり、彼らの言う悪書なるものを何万冊も集めて焼いたり破ったりしたという。

たと思った。一時、古書店で三百万の値がついたという。その客はキャッシュで三百万払い、名も告げず立ち去つたという。アテネで本を受け取る時、「他に誰か注文した人は?」。私一人だった由。復刻されるのが遅すぎたのかもしれない。

あの頃の小学生ももう七十。私も老眼がこんなに進む前に読みたかったとは思うけれど、高校の時の『Historie de l'O嬢の物語』、中学の時の『Suei(洞窟の女王、第三六号で紹介)、そして一番最後になつたけれど『沙漠の魔王』。とにかく手にとつて読めるのだから、今年の夏はどんなに暑くとも、私にはステキな夏だった。



本の話③ 様々な楽しみの宝庫、『文庫』『新書』

昭和22年発行「雪国」は今年で147刷

各部に美しい名称のある本(前号)を寝ころがって読むなんて、本に失礼——。それなら文庫本や新書でどうでしょうか。軽いし、ページをめくるのも楽ですよ。価格も安めで携帯にも便利。電車の中でケータイとにらめっこより、よほどよろしいかと。

II 文庫の草分け

文庫といえば思い出すのが岩波文庫と新潮文庫。新潮が大正3年、岩波が昭和2年と、どちらも日本の文庫本の最初を名乗っていますが、創刊した時の本のサイズが少々異なるようです。

いずれにしても、それぞれのベストセラーの奥付(巻末に記してある発行年月日や刷数)に“老舗”の面目躍如たるものがあります。新潮文庫の最初の作品、川端康成の「雪国」は昭和22年7月発行で、今年5月でなんと147刷。一回に何部印刷するのか不明ですが、まさに不朽の名作といってよいでしょう。

片や岩波文庫。同書店によりますと刊行以来、多く読まれてきたベスト3は①



「ソクラテスの弁明・クリトン」156万9000部②「坊っちゃん」135万8000部③「エミール(上)」(2006年12月まで)。「ソクラテス」は昭和2年発行で、今年4月で99刷を重ねています。

文庫の発行形態は、古典以外は新刊本の普及版として数年後に刊行されるのが一般的でしたが、今では事典や学術書、ビジュアル版など様々なジャンルで発刊されています。出版社も多数。涉猟にはもってこいでしょう。

II 知識を蓄える新書

文庫に劣らず豊富なラインナップが各社の新書。歴史は昭和13年(1938)創刊の岩波新書に始まります。文庫が主と

して古典を収録するのに対して、こちらは書き下ろし(新聞連載などをまとめるのではなく、初めから出版を目的に書

く)。自然科学や社会科学、人文科学などあらゆるジャンルにわたっていますので、教養を高めるのには最適です。

最近では養老孟司「バカの壁」(新潮新書、2003年)が発売以来3年間で400万部を超えたというベストセラーが記憶に新しいところ。「さおだけ屋はなぜ潰れないのか」(山田真哉、光文社



新書)や「世にも美しい数学入門」(藤原正彦/小川洋子、ちくまプリマー新書)といった、興味を引きそうなタイトルも特徴です。

●**出前でアドバイスを**
自分史など本をつくりたいと考えている人のために、印刷担当者と編集者がお伺いしてアドバイスをいたします。グループでもどうぞ。お気軽にお申し込みください。

●**記念誌で歴史を残す**
企業や団体が二十年、三十年と歴史を重ねていくうちに、人が変

わったり資料が散逸したりします。節目の年に記念誌の制作はいかがですか。企画、編集、印刷、どの段階からでもご用命を承ります。

●**小紙をお送りします**
忙しい毎日、ほっと一息つける話題を提供していきたいと願っている小紙です。ご希望の方に無料でお送りしています。印刷紙工までお申し込みください。



本づくり質問箱

本づくりの「？」にお答えします。お気軽に質問をお寄せください。



Q 少しずつ自分史の原稿ができています。もう3カ月もすれば完成すると思いますが、その後の工程のことをまったく考えておりませんでした。印刷会社に原稿を渡してから先は、どのような作業手順になるのでしょうか。何か月くらいで刷り上がるのでしょうか。

印刷渡してから2、3か月で納品

A 本の完成に合わせて何かを催すとか、多忙で他の仕事とスケジュールが重なるなどというときは、予定を立てておいた方がよいでしょう。

ページ数などにもよりますが、手書きの原稿で受け取った場合で概ね完成まで2~3か月くらいでしょうか。その工程は

- ①組版(本文の印字) 10日間
- ②初校(著者文字校正) 2週間
- ③初校直し 1週間
- ④再校正 1週間
- ⑤最終校正 1週間
- ⑥印刷 1週間
- ⑦製本 1週間



——で合計8週間、約2か月ということになります。

しかしこれは、あくまでも目安であってこのとおり順調にいくとは限りません。とくに著者校正で手間取ったり、大幅な直し、差し替え、新たな原稿・資料類の追加などが発生しますと大きく遅れます。肝心なことは、最初から文章を納得のいくものにしておくことや、正確な年月日の記載です。